



海外への情報発信強化

(総務省平成23年度第三次補正予算)

概要

平成24年2月1日

総務省 情報流通行政局
情報通信作品振興課

海外への情報発信の強化

テレビ国際放送や国際共同製作等を通じて、海外への情報発信を強化し、東日本大震災後の海外における日本のイメージ回復を図り、風評被害等の拡大を防止する。

1 施策の概要

東日本大震災後の日本のイメージ回復を図り、風評被害拡大を防止するため、放送法第21条に基づき、外国人向け協会衛星国際放送業務を円滑に行うことを目的に設立されたNHKの子会社※が、海外の外国人向けに、英語で実施している我が国国際放送の拡充等により、海外への情報発信を強化する。

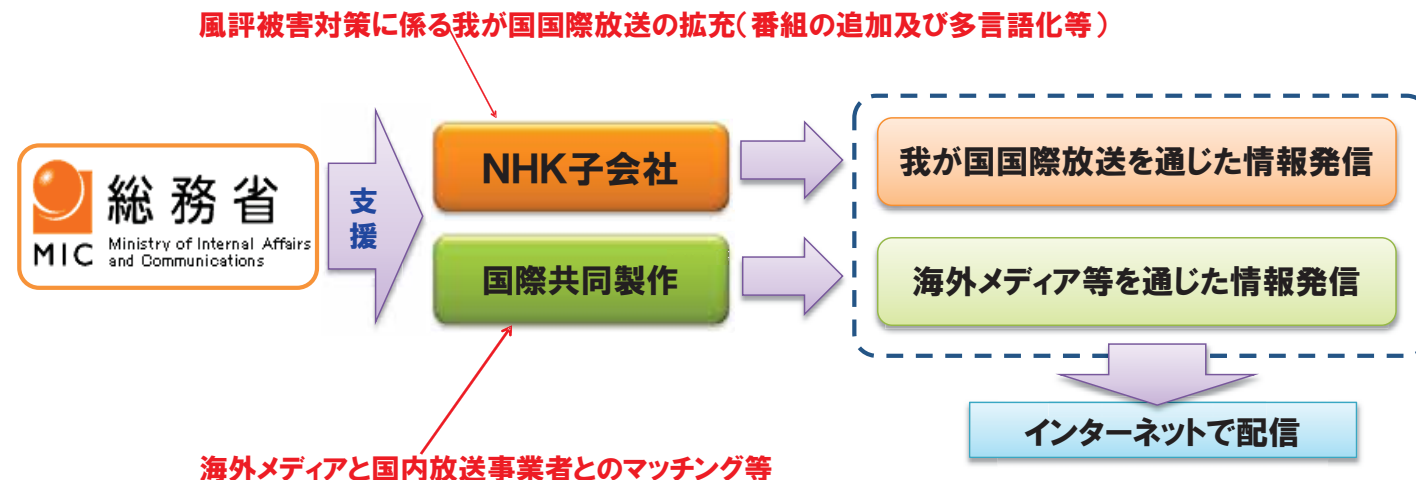
あわせて、海外の放送事業者と我が国の製作者で共同製作した番組を通じて日本と海外双方バランスの取れた視点を踏まえた正確な情報を海外に向けて発信する。

(具体的な施策は以下のとおり)

- ① 被災地の復興をテーマとした番組を委託により製作し、NHK子会社の外国人向け海外放送のネットワークを活用して世界に放送するとともに、インターネット等でも配信する。
- ② 海外放送事業者と国内放送事業者が被災地の復興をテーマとした放送番組を共同製作することを推進するため、海外放送事業者と国内放送事業者等とのマッチングを支援する。

※日本国際放送:外国人向けテレビ国際放送を行うためにNHKが設立した子会社。

2 イメージ図



スキーム・スケジュール

1. 我が国の国際放送を通じた情報発信

- (1) 外国人向け国際放送ネットワークの放送枠の確保。
- (2) 大震災からの復興をテーマとした映像コンテンツを30～45本企画・製作
- (3) うち1／3程度については、オープンな企画公募を実施。
- (4) 放送と同時に、ライブストリーミングによりインターネット配信。

2. 国際共同製作の推進

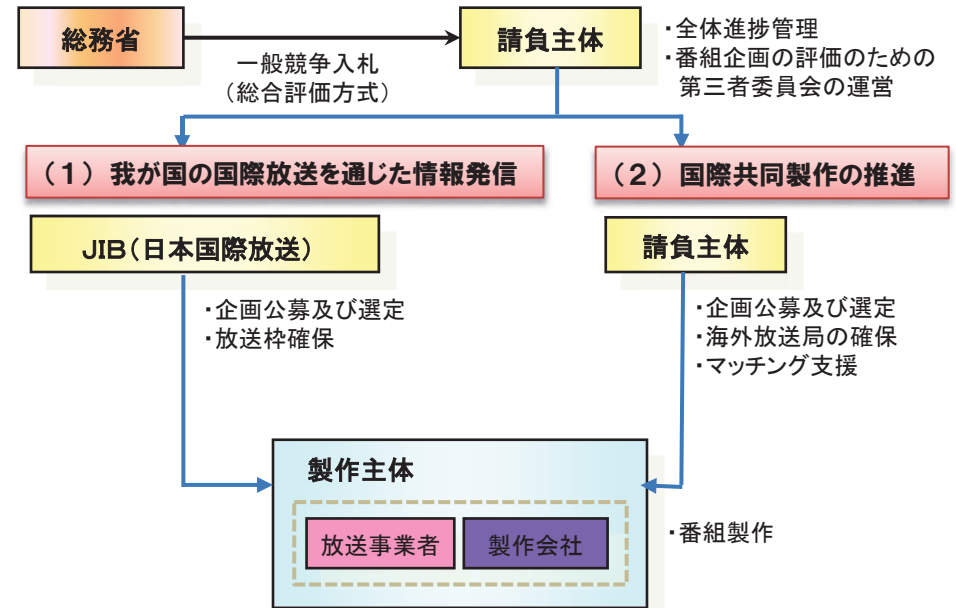
- (1) 日本と共同製作を希望する海外放送事業者を確保。
- (2) オープンな企画公募を実施。
- (3) マッチングの場の提供。
- (4) 共同製作の際に生じた課題を解決する際に得られた知見、ノウハウ等を請負主体に情報提供。

3. 映像コンテンツの二次利用

- (1) 上記1, 2で企画・製作した映像コンテンツについて、二次利用を円滑に進めるため、著作権等の権利処理を実施。
- (2) インターネット配信、国際イベント等における上映、ビデオグラム化による二次利用を推進。

4. 映像コンテンツの評価

- (1) 上記1, 2により海外に発信された映像コンテンツを対象として、視聴者の評価等の調査・分析を実施。
- (2) 国際共同製作のマッチングを行う国際イベントの開催を通じて、今後の国際共同製作ビジネスの機会創出に向けた調査・分析を実施。
- (3) 日本のイメージ回復に向けた映像コンテンツの活用の在り方等の整理。



	請負主体(JIB含む)	製作主体
23年 12月	12/22 入札公告	
24年 1月	1/26 請負主体決定 ・企画公募	
2月	・マッチング先確保 ・企画選定	・コンテンツの企画・検討
3月	・国際イベント開催 (マッチング実施) ・製作した番組から随時放送	・マッチングの場での企画提案 ・コンテンツの製作
12月	・コンテンツに関する評価(随時)	・知見、ノウハウの提供
25年 1月	・効果検証とりまとめ	

番組企画～製作までの詳細スキーム

① JIB-TV(株) 日本国際放送枠

JIB枠で放送

企画選定基準

- ・風評被害の拡大を防止して日本の経済活性化に資する企画
- ・海外に対する受容性が高い企画
- ・将来的に映像コンテンツの海外展開に積極的に取り組むことを想定した計画を有している者の企画
- ・ネット配信(同時ストリーミング、VOD)等を前提とした企画

② 国際共同製作

共同製作先となる海外放送事業者等の枠で放送

- ・風評被害の拡大を防止して日本の経済活性化に資する企画
- ・海外に対する受容性が高い企画
- ・将来的に映像コンテンツの海外展開に積極的に取り組むことを想定した計画を有している者の企画
- ・ネット配信(同時ストリーミング、VOD)等を前提とした企画
- ・高い波及効果が期待できる国または地域での放映を想定した企画
- ・海外放送事業者等とのマッチング成立可能性が高い企画(共同製作先の事前確保も可)

【2月1日～2月21日】

企画公募

請負主体(電通)により実施

12本程度

15本程度

支援金額

製作費(1本あたり)
200～500万円

調査費(1本あたり)
400～1000万円

企画選定

【2月29日】
請負主体(電通)及びJIBによる選定

【2月29日】
請負主体(電通)及びASD事務局による選定

【選定後のプロセス】

マッチング

【3月中】
国際イベント(ASD)において企画発表していただいた後、
請負主体(電通)でマッチングを支援
(共同製作先の事前確保も可)

製作

選定された放送局及び番組製作会社

企画公募サイト

<http://www.j-forward.jp>

公募要項

【公募サイトより抜粋】

①JIB-TV(日本国際放送枠)

放送枠: 日本国際放送(JIB-TV)

公募本数: 12本程度

放送尺: 24分

放送予定日: 2012年6月～秋頃

対象者: 国内に拠点を有する映像コンテンツ制作者(放送事業者、番組・映像製作会社等)

必要書類: 企画書(A4)1枚をご記入し、下記提出先まで送付ください。

企画選定: JIB及び請負主体(電通)による選定

企画選定基準:

- ・風評被害の拡大を防止して日本の経済活性化に資する企画
 - ・海外に対する受容性が高い企画
 - ・将来的に映像コンテンツの海外展開に積極的に取り組むことを想定した計画を有している者の企画
 - ・ネット配信(同時ストリーミング、VOD)等を前提とした企画
- 支援金額: 製作費として1本当たり200万円～500万円程度(企画内容により応相談)

②国際共同製作

放送枠: 共同製作先となる海外放送事業者等

公募本数: 15本程度

放送尺: 30～60分程度

放送予定日: 2013年1月頃まで

対象者: 国内に拠点を有する映像コンテンツ制作者(放送事業者、番組・映像製作会社等)

必要書類: 企画書(A4)2枚をご記入し、下記提出先まで送付ください。

企画選定: 請負主体(電通)及びAsian Side of the DOC(ASD)事務局による選定

企画選定基準:

- ・風評被害の拡大を防止して日本の経済活性化に資する企画
- ・海外に対する受容性が高い企画
- ・将来的に映像コンテンツの海外展開に積極的に取り組むことを想定した計画を有している者の企画
- ・ネット配信(同時ストリーミング、VOD)等を前提とした企画
- ・高い波及効果が期待できる国または地域での放映を想定した企画
- ・海外放送事業者等とのマッチング成立可能性が高い企画(共同製作先の事前確保も可)

支援金額: 調査費として1本当たり400万円～1,000万円程度(企画内容により応相談)

マッチング: 3月に開催予定の国際共同製作イベント(Asian Side of the DOC(ASD))で企画を発表していただいた後、請負主体(電通)が共同製作先とのマッチングを支援いたします。

公募スケジュール

2月1日(水)	企画公募開始
2月21日(火)	公募締切
2月29日(水)	企画選定
3月中旬	(国際共同製作の場合)国際共同製作イベント(Asian Side of the DOC)にて企画発表

【参考情報】 JIBにて放送予定番組

No.	番組名	内容
1	「OYAKO Forever ～present to the future～」	親子写真家、ブルース・オズボーンが、震災後、被災地を訪ねさまざまな親子と出会いながら、親子写真を撮影した300キロの旅を追った。そこには震災から立ち直ろうとする人々や津波にも流されなかった親子の絆の強さと優しさがあつた。
2	「古文書が語る巨大津波」	古文書と考古学が語る巨大津波。歴史を紐解けば、東日本大震災は「未曾有」でも「予想外」でもなかった。かつて何度も日本を襲っていた巨大津波の実態を検証し、“無視”されてきた古文書の津波をアニメーションやコンピューターグラフィックスで再現する。
3	「遠き 心の復興」	3・11から9カ月。「こころの復興」を目指して必死にもがく被災者たちと、被災者に寄り添い心のケアを支援する人たちの姿から、忘れてはならない被災者の心の問題と長期的な見守りの必要性を伝える。
4	「記者たちの眼差し」特別編	JNN系列各局の記者たちが現地入りして制作したりポートとその後。記者たちが、一人の人間として、それぞれが一人称の記者レポートで、何を見て、何を感じ、悩み、どう伝えてきたのか、その心の軌跡を語る。
5	「福島を生きる」	東日本大震災から半年の節目。震災・原発事故に見舞われながらも、いかにして事業継続し従業員の雇用を守るか。故郷の再生を信じて闘う、福島の不屈の企業を追う。(ガイアの夜明け)
6	「家族を見つけない」	震災で息子と娘、父親の3人が行方不明になった福島県南相馬市の元消防団員・小西康弘さん。福島第一原発から30km圏内にありながら、小西さんは仲間とともに捜索を続けている。「家族を支え、仲間に心配かけないため…」絶望的な状況でも、強く生きようとする小西さんの姿を追った。
7	「原発と牛飼い」	未曾有の原発事故により牛を処分し我が家をも去る事になった酪農・繁殖農家。福島県葛尾村の三つの家族がこの悲劇とどう向き合ったのか？その姿と放射能汚染の現実を追う。
8	「思い出がつなぐ記憶」	大津波は大切な家族だけではなく、思い出までも奪い去った。宮城県名取市にある体育館にはがれきの中から見つけられたアルバムや位牌、ランドセルが床一面に並べられている。「たった一枚の写真が誰かの支えになるかもしれない」、思い出を持ち主の元へ届けようと活動する女性の思いを伝える。
9	「きっとツナガル・・・歌手クミコの震災」	コンサートのため宮城県石巻に居合わせた歌手クミコ。間一髪津波から逃れたものの、心に深い傷を負い歌への情熱を失ってしまう。そんな彼女に勇気を与えたのが泥の中から掘り出された1台のグランドピアノ。クミコの震災体験をもとに復興のため立ち上がった熱い思いと絆を描く音楽ドキュメント。
10	「笑顔をもう一度～フラガール in FUKUSHIMA～」	フラガールたちの多くは東北の出身者。未曾有の大震災を経て、地域に支えられてきたショーの意味合いも大きく変わった。被災者でもあり、被災地に生きる若者でもある彼女たちが再興したステージでショーを再開するまでに密着。復活の日にかける思いを伝える。
11	「Foreign Nurse after3・11」	インドネシアやフィリピンから来日している外国人看護師の震災とその後。
12	「震災を乗り越えた ～新幹線の安全技術～」	日本が誇る新幹線の安全技術と震災後1カ月半の全線開通への取り組み。
13	「いのちの鼓動 ～陸前高田・氷上太鼓～」	太鼓で町おこしを目指していた陸前高田市。震災で仲間を失いながらも、復興のために再結成した氷上太鼓グループの苦闘を追う。
14	「続・命てんでんこ」	「津波太郎」の異名を持つ岩手県宮古市田老地区。田畑ヨシさんは、明治三陸大津波の経験者である祖父の教え「命てんでんこ＝自分の命は自分で守れ」を後世に伝える語り部だ。震災発生から1カ月。86歳にして故郷を離れることにしたヨシさんの心の内にあるものは—
15	「はまらいんや ～仲間にはいりませんか～」	東北に根をおろした外国人花嫁たちの目を通して描く震災。